

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3177817号
(U3177817)

(45) 発行日 平成24年8月16日 (2012. 8. 16)

(24) 登録日 平成24年7月25日 (2012. 7. 25)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 47/06 (2006. 01)

B 6 5 D 51/24 (2006. 01)

B 6 5 D 47/06 X

B 6 5 D 51/24 G

評価書の請求 未請求 請求項の数 29 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号	実願2012-3433 (U2012-3433)	(73) 実用新案権者	510069881
(22) 出願日	平成24年6月7日 (2012. 6. 7)		林 振基
(31) 優先権主張番号	100210286		台湾台北県汐止市忠二街6巷21号
(32) 優先日	平成23年6月7日 (2011. 6. 7)	(74) 代理人	100093779
(33) 優先権主張国	台湾 (TW)		弁理士 服部 雅紀
(31) 優先権主張番号	101208003	(72) 考案者	林 振基
(32) 優先日	平成24年4月27日 (2012. 4. 27)		台湾新北市三峡区安坑里安坑10号
(33) 優先権主張国	台湾 (TW)		

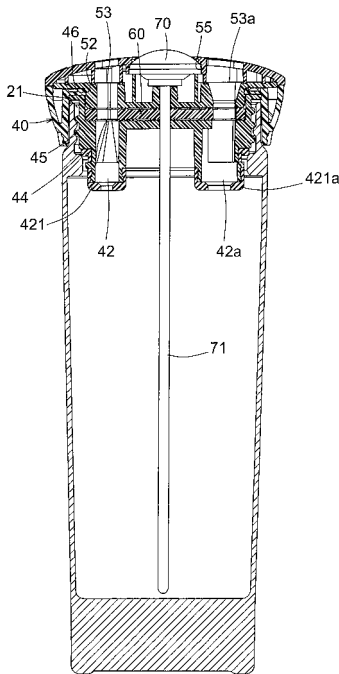
(54) 【考案の名称】 容器蓋

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 液体がストロー内から外縁へ外に漏れだすのを防止させる容器蓋を提供する。

【解決手段】 第1 蓋体40および第2 蓋体を備える。第1 蓋体40は、第1 細ストロー孔42、及び第1 太ストロー孔42aが貫設され、容器の開口部21に密接可能である。第2 蓋体は、第1 蓋体40の上方に回転可能に設けられ、第2 細ストロー孔53及び第2 太ストロー孔53aが貫設され、第2 細ストロー孔53及び第2 太ストロー孔53aの底縁には狭長のスリット部が設けられ、スリット部を回転することで、第2 細ストロー孔53及び第2 太ストロー孔53aと第1 蓋体40の第1 細ストロー孔42及び第1 太ストロー孔42aとを連通または遮断させる。

【選択図】 図4



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 細ストロー孔、及び第 1 太ストロー孔が貫設され、容器の開口部に密接可能な第 1 蓋体と、

前記第 1 蓋体の上方に回転可能に設けられ、第 2 細ストロー孔及び第 2 太ストロー孔が貫設され、前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔の底縁には狭長のスリット部が設けられ、前記スリット部を回転することで、前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔と前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔とを連通または遮断させる第 2 蓋体と、を備える事の特徴とする容器蓋。

【請求項 2】

前記第 1 蓋体と第 2 蓋体との間には密封部材が設けられ、

前記密封部材には細ストロー貫通孔及び太ストロー貫通孔が貫設され、前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔は、前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔の上方に対応し、前記第 2 蓋体が回転することで、前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔が前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔に対応する場合、前記密封部材の前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔上方の周縁は、前記第 2 蓋体の前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔底部の周縁に密着され、前記密封部材の前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔下方の周縁は、前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔の周縁に密着されることを特徴とする、請求項 1 に記載の容器蓋。

【請求項 3】

前記第 1 蓋体と第 2 蓋体との間には密封部材が設けられ、

前記密封部材には細ストロー貫通孔及び太ストロー貫通孔を貫設され、前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔は、前記第 2 蓋体の前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔の下方に対応し、前記第 2 蓋体が回転することで、前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔が前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔に対応する場合、前記密封部材の前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔下方の周縁は、前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔上部の周縁に密着され、前記密封部材の前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔上方の周縁は、前記第 2 蓋体の前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔の周縁に密着されることを特徴とする請求項 1 に記載の容器蓋。

【請求項 4】

前記第 2 蓋体はホットドリンク用吸口が更に設けられることを特徴とする請求項 2 に記載の容器蓋。

【請求項 5】

前記第 2 蓋体はホットドリンク用吸口が更に設けられることを特徴とする請求項 3 に記載の容器蓋。

【請求項 6】

前記密封部材および前記第 1 蓋体には、通気孔がそれぞれ形成され、前記密封部材の通気孔と前記第 1 蓋体の通気孔とは互いに連通されていることを特徴とする請求項 4 に記載の容器蓋。

【請求項 7】

前記密封部材および前記第 1 蓋体には、通気孔がそれぞれ形成され、前記密封部材の通気孔と前記第 1 蓋体の通気孔とは互いに連通されていることを特徴とする請求項 5 に記載の容器蓋。

【請求項 8】

前記スリット部は拡大孔部を備え、前記拡大孔部の一辺から縦長のスリット部が凹設されることを特徴とする請求項 1 に記載の容器蓋。

【請求項 9】

前記第 1 蓋体は、受台および上部受台を更に有し、

前記上部受台は、前記受台の上端に設けられ、

前記受台の上端と前記上部受台との間には、前記密封部材を収容可能な収容スペースを有し、

前記受台には、前記第1細ストロー孔及び前記第1太ストロー孔が貫通され、前記第1太ストロー孔の孔径は前記第1細ストロー孔の孔径より大きいことを特徴とする請求項6または7に記載の容器蓋。

【請求項10】

前記第1蓋体は、外縁にねじ山部が設けられ、前記容器の前記開口部に螺着可能であり、外縁に漏れ防止パッキングリングが環装され、前記容器と前記第1蓋体の前記外縁との間の隙間を密封することを特徴とする請求項1に記載の容器蓋。

10

【請求項11】

前記第2蓋体の外縁にはリング溝が環装され、

前記第1蓋体にはフランジが設けられ、

前記リング溝と前記フランジとは互いに嵌合可能であり、

前記第2蓋体は前記第1蓋体の上で自由に回転可能であることを特徴とする請求項1に記載の容器蓋。

【請求項12】

前記第1蓋体の上面には、前記第1蓋体及び前記第2蓋体の回転軸心を中心とする離心中心のアーチ溝が設けられ、

前記第2蓋体は、底縁に位置決めフランジが設けられ、前記第2蓋体の前記位置決めフランジは前記アーチ溝に進入し、前記アーチ溝の両端に形成される夾角間で回転可能であることを特徴とする、請求項1に記載の容器蓋。

20

【請求項13】

前記第2蓋体は、第2機能部材を嵌め込ませる嵌め込み孔を更に有することを特徴とする請求項1に記載の容器蓋。

【請求項14】

前記第2機能部材は、温度表示機能を有し、前記密封部材及び前記第1蓋体を貫通し前記容器内に進入するプローブを有することを特徴とする請求項13に記載の容器蓋。

【請求項15】

前記第2機能部材は温度計であることを特徴とする請求項13に記載の容器蓋。

30

【請求項16】

前記第2機能部材は指北針であることを特徴とする請求項13に記載の容器蓋。

【請求項17】

前記第2機能部材は気圧計であることを特徴とする請求項13に記載の容器蓋。

【請求項18】

前記第2機能部材は高度計であることを特徴とする請求項13に記載の容器蓋。

【請求項19】

前記第2機能部材はライトであることを特徴とする請求項13に記載の容器蓋。

【請求項20】

前記密封部材の前記第2蓋体に接触する面において、前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔の周縁方向に、前記第2蓋体の底縁に貼着可能な漏れ防止環状部が延設され、前記第2蓋体の位置変化による漏れを抑制可能であることを特徴とする請求項6または7に記載の容器蓋。

40

【請求項21】

前記密封部材の前記第1蓋体に接触する面において、前記細ストロー貫通孔及び前記太ストロー貫通孔の周縁方向に、前記第1蓋体の上縁に貼着可能な漏れ防止環状部が延設され、前記第1蓋体の位置変化による漏れを抑制可能であることを特徴とする請求項6または7に記載の容器蓋。

【請求項22】

前記第1蓋体の上面は3つの漏れ防止環状部を有し、

50

前記漏れ防止環状部は、それぞれ前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔、前記第 1 太ストロー孔、及び前記通気孔の周縁に位置され、前記密封部材と前記第 1 蓋体との接触面に貼着可能であり、前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔、前記第 1 太ストロー孔、及び前記通気孔の漏れを抑制可能であることを特徴とする請求項 6 または 7 に記載の容器蓋。

【請求項 2 3】

前記第 2 蓋体の底面には 3 つの漏れ防止環状部を有し、

前記漏れ防止環状部は、それぞれ前記第 2 蓋体の前記第 2 細ストロー孔、前記第 2 太ストロー孔、及び前記ホットドリンク用吸口の周縁に位置され、前記密封部材と前記第 2 蓋体との接触面に貼着可能であり、前記第 2 蓋体の前記第 2 細ストロー孔、前記第 2 太ストロー孔、及び前記ホットドリンク用吸口の漏れを抑制可能であることを特徴とする請求項 6 または 7 に記載の容器蓋。

10

【請求項 2 4】

前記第 2 蓋体の底縁には前記弾性アームが設けられ、前記弾性アームにはホック部が設けられ、前記第 1 蓋体の上面には位置決め部が突設され、

前記位置決め部は、前記ホック部の回転移動経路上に設けられ、前記第 2 蓋体の前記弾性アームの前記ホック部を前記位置決め部に対応する場合、前記第 2 蓋体の前記第 2 細ストロー孔及び前記第 2 太ストロー孔と、前記第 1 蓋体の前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔とがずれることを特徴とする請求項 1 に記載の容器蓋。

【請求項 2 5】

前記第 2 蓋体は基部及び蓋体部により組成されることを特徴とする請求項 1 に記載の容器蓋。

20

【請求項 2 6】

前記第 2 蓋体の前記第 2 細ストロー孔、前記第 2 太ストロー孔及び前記ホットドリンク用吸口上には、ドリンク容器の方式に対応するホットドリンク用吸飲標識、アイスドリンク用吸飲標識及び閉鎖標識が標示され、

前記第 1 蓋体の外縁には位置合せ標識が標示されることを特徴とする請求項 6 または 7 に記載の容器蓋。

【請求項 2 7】

前記第 1 蓋体は前記第 1 細ストロー孔及び前記第 1 太ストロー孔の底端に軟質のスリーブ部が設けられ、前記スリーブ部は、挿入されるストローの外縁に密着することを特徴とする請求項 1 に記載の容器蓋。

30

【請求項 2 8】

前記第 2 蓋体は、前記第 2 機能部材を挿入可能な嵌め込み孔を更に有し、

前記第 2 機能部材は、末端にろ過盤が被嵌され、前記容器に縦に挿入可能な棒体を備えることを特徴とする請求項 1 に記載の容器蓋。

【請求項 2 9】

前記第 2 蓋体は、前記第 2 機能部材を挿入可能な嵌め込み孔を更に有し、

前記第 2 機能部材は、末端に攪拌ヘッドが被嵌され、前記容器に縦に挿入可能な棒体を備えることを特徴とする請求項 1 に記載の容器蓋。

【考案の詳細な説明】

40

【技術分野】

【0001】

本考案は、容器蓋に関し、詳しくはストロー等の機能部材を装着可能な容器蓋に関する。

【背景技術】

【0002】

現在、一般的な飲料の販売店では、タピオカティー、ミルクティー、コーラ等を扱い、紙コップ或いはプラスチック製のコップに飲料を入れて消費者に提供している。消費者は飲料を飲み終わると、紙コップ或いはプラスチック製のコップを棄てる。このため、大量の紙コップ或いはプラスチック製のコップを製造する必要があり、資源の浪費となる。ま

50

た、環境保全機関では、大量の紙コップ或いはプラスチック製のコップを処理する為に、大量のエネルギーを浪費する。

【０００３】

屋外活動時の飲料摂取時、ストローを使って飲料を吸うのは、飲料を漏らさない為の最もよい方法である。前述の紙コップ或いはプラスチック製のコップには、ストローを利用可能であるが、ストローを密封して飲料が漏らさないようにする事は出来ない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】特開２０１１－１１６３９１号公報

10

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【０００５】

また、保温効果を有するステンレス保温カップが市場に出回っているが、ステンレス保温カップの使用には以下の欠点が存在する。

１、ステンレス保温カップの蓋は、保温の為密閉式となっているが、ストロー挿入用のストロー孔を提供出来ないため、ストローを挿入させて吸う事が出来ない。

２、ステンレス保温カップの蓋を開け、ストローを挿入して吸う際、吸う動作を中断させると、カップの開口部とストローとを密閉することが出来ず、カップ中の飲料が溢れ、衛生上の問題を引き起こす。

20

３、このほか、毎回飲む時には蓋を開ける必要がある為、保温効果が低減する。

４、ストローを付属させる従来の容器はストローの洗浄が難しく細菌が繁殖し易いという欠点がある。

【０００６】

本考案は、上記の問題に鑑みてなされたものであり、その目的は液体がストローの内縁及び外縁から外へ漏れるのを抑制可能な容器蓋を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本考案に係る容器蓋は第１蓋体および第２蓋体を備える。

第１蓋体は、第１細ストロー孔及び第１太ストロー孔を貫設させ、容器の開口部に密接される。

30

第２蓋体は、第１蓋体の上方に回転可能に設けられ、第２細ストロー孔及び第２太ストロー孔が貫設され、第２細ストロー孔及び第２太ストロー孔の底縁には狭長のスリット部が設けられ、スリット部を回転することで、第２細ストロー孔及び第２太ストロー孔と第１蓋体の第１細ストロー孔及び第１太ストロー孔とを連通または遮断させる。

【０００８】

第２蓋体を回転させて第２蓋体の第２細ストロー孔、第２太ストロー孔及びホットドリンク用吸口と、第１蓋体の第１細ストロー孔、第１太ストロー孔及び通気孔とをそれぞれ対応する場合、第２蓋体の第２細ストロー孔、第２太ストロー孔及びホットドリンク用吸口等の孔が位置ずれの為に全て完全密封される外、第１蓋体と第２蓋体との間を貫通するストローを、まずスリット部に挿入させて挟んだ後、続けてストローを湾曲させ、第２蓋体と第１蓋体との間の圧力により締め固め、ストローの内縁を徹底的に収縮させる。ストローの内縁及び外縁が徹底的に密封される為、容器中の液体が外に漏らさないという目的を達成することができる。

40

【０００９】

さらに、本考案に係る容器蓋は、第１蓋体と第２蓋体との間に密封部材が設けられ、密封部材には細ストロー貫通孔、太ストロー貫通孔及び通気孔が設けられ、細ストロー貫通孔、太ストロー貫通孔及び通気孔は、第１蓋体の第１細ストロー孔、第１太ストロー孔及び通気孔の上方に対応する。第２蓋体が回転することで第２細ストロー孔或いは第２太ストロー孔を第１蓋体の第１細ストロー孔及び第１太ストロー孔に対応する場合、密封部材

50

の細ストロー貫通孔及び太ストロー貫通孔の上方と下方の周縁を、第２蓋体の第２細ストロー孔及び第２太ストロー孔の底部の周縁並びに第１蓋体の第１細ストロー孔及び第１太ストロー孔の周縁にそれぞれ密着させ、容器中の液体の漏れを抑制する。

【００１０】

本考案に係る容器蓋は漏れ防止環状部を第１蓋体の上方に設けてもよく、また第１細ストロー孔、第１細ストロー孔及び通気孔の周縁に位置させてもよい。同様に、上述の漏れ防止環状部は第２蓋体の下方に設けてもよく、また第２細ストロー孔、第１細ストロー孔及びホットドリンク用吸口の周縁に位置してもよい。

【００１１】

本考案に係る容器蓋では、第２蓋体は基部及び蓋体部により組成され、基部及び蓋体部は高周波接着或いはねじでの螺着され、第２蓋体は一体射出成形される。第２蓋体の各第２細ストロー孔及び第２太ストロー孔の下方には、拡大孔部がそれぞれ形成され、拡大孔部の一辺からは縦長のスリット部が凹設される。第２蓋体が回転する場合、第２細ストロー孔或いは第２太ストロー孔の下方の拡大孔部の壁面は、ストローを狭長のスリット部へ進入させる。スロットは、スリット部により挟まれ、第２蓋体の回転によりＬ字に湾曲し、第２蓋体の第１蓋体への圧力により締め固められる。これにより、ストローが密閉され、容器中の液体を全くストローの内縁或いは外縁から外へ漏らさない。

【考案の効果】

【００１２】

本考案では、容器中の液体の漏れを抑制することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１３】

【図１】本考案の一実施形態による容器蓋の分解斜視図である。

【図２】本考案の一実施形態による容器蓋の分解斜視図である。

【図３】本考案の一実施形態による容器蓋の斜視図である。

【図４】図３の４－４線断面図である。

【図５】本考案の一実施形態による容器蓋にストローを設けた状態を示す分解斜視図である。

【図６】図５の６－６方向矢視図である。

【図７】本考案の一実施形態による容器蓋の第１蓋体及び第２蓋体の回転により、ストローが収縮された状態を示す分解斜視図である。

【図８】図７の８－８方向矢視図である。

【図９】本考案の一実施形態による容器蓋の使用状態を示す模式図である。

【図１０】本考案の一実施形態による容器蓋の使用状態を示す模式図である。

【図１１】本考案の一実施形態による容器蓋の使用状態を示す模式図である。

【考案を実施するための形態】

【００１４】

以下、本考案の実施形態について、図面に基づいて詳細に説明する。

（一実施形態）

本考案の一実施形態の容器蓋の構成を図１から図８に示す。

容器蓋は、容器２０の開口部２１に密接可能であり、第１細ストロー孔４２、第１太ストロー孔４２ａ、及び通気孔４３を有する第１蓋体４０、ならびに、第１蓋体４０の上方に回転可能に設けられ、第２細ストロー孔５３、第２太ストロー孔５３ａ、及びホットドリンク用吸口５３ｂを有する第２蓋体５０を備える。

【００１５】

第２蓋体５０を回転することで、第２細ストロー孔５３、第２太ストロー孔５３ａ及びホットドリンク用吸口５３ｂと、第１蓋体４０の第１細ストロー孔４２及び第１太ストロー孔４２ａとを連通する状態、或いは遮断する状態にすることができる。

【００１６】

図１、図２及び図４を示すように、本実施形態に係る容器蓋は、第１蓋体４０と第２蓋

10

20

30

40

50

体 5 0 との間に、密封部材 6 0 が設けられ、密封部材 6 0 には、細ストロー貫通孔 6 1、太ストロー貫通孔 6 1 a、及び通気孔 6 2 を有する。また密封部材 6 0 の各前記細ストロー貫通孔 6 1、太ストロー貫通孔 6 1 a 及び通気孔 6 2 は、第 1 蓋体 4 0 の第 1 細ストロー孔 4 2、第 1 太ストロー孔 4 2 a 及び通気孔 4 3 の上方に対応する。

【0017】

図 1 及び図 2 を示すように、密封部材 6 0 の底面には 2 つの貫通しない凹陷状の接続部 6 3 ≡ 図 2 を示すように ≡ が設けられ、第 1 蓋体 4 0 の受台 4 0 a の上面には 2 つの凸状になる位置決め部 4 9 ≡ 図 1 を示すように ≡ が設けられ、2 つの凹陷状を呈する接続部 6 3 に各自対応する。密封部材 6 0 の底面の 2 つの接続部 6 3 は、受台 4 0 a の上面の 2 つの位置決め部 4 9 に各自整合させて嵌合する。密封部材 6 0 は、受台 4 0 a に対向して固定され、第 1 蓋体 4 0 に固定される。当然密封部材 6 0 は、第 2 蓋体 5 0 に固設され、第 2 蓋体 5 0 と共に回転可能である。

10

【0018】

清涼飲料の機能を使用する場合、第 2 蓋体 5 0 を回転させて第 2 蓋体 5 0 の第 2 細ストロー孔 5 3 を第 1 蓋体 4 0 の第 1 細ストロー孔 4 2 に対応する。第 2 蓋体 5 0 の第 2 太ストロー孔 5 3 a は第 1 蓋体 4 0 の第 1 太ストロー孔 4 2 a に対応する。ユーザーは、選択する太ストロー或いは細ストローを容器 2 0 内に挿入し、容器 2 0 内の飲料を吸う。

【0019】

密封部材 6 0 の細ストロー貫通孔 6 1 及び太ストロー貫通孔 6 1 a の上方の周縁には、突出される漏れ防止環状部 6 1 2 が設けられる。漏れ防止環状部 6 1 2 は、第 2 蓋体 5 0 の第 2 細ストロー孔 5 3 及び第 2 太ストロー孔 5 3 a の底部の周縁に密着する。密封部材 6 0 の細ストロー貫通孔 6 1 及び太ストロー貫通孔 6 1 a の下方の周縁には漏れ防止環状部 6 1 2 が設けられる。防止環状部 6 1 2 は、第 1 蓋体 4 0 の第 1 細ストロー孔 4 2 及び第 1 太ストロー孔 4 2 a の周縁に密着し、容器 2 0 中の液体の漏れを抑制する。第 2 細ストロー孔 5 3 及び第 2 太ストロー孔 5 3 a の底縁には、狭長のスリット部 5 7 がそれぞれ設けられる。第 2 蓋体 5 0 が回転することで、第 1 蓋体 4 0 と第 2 蓋体 5 0 との間に貫通されるストロー P は、スリット部 5 7 に挿入され、スリット部 5 7 の収縮により挟まれる。第 2 蓋体 5 0 を継続して回転すると、挟まれたストロー P は更に湾曲する。第 2 蓋体 5 0 と第 1 蓋体 4 0 との間の圧力により、ストロー P の内縁を締め固めることでストロー P を完全に密閉する。これにより、容器 2 0 の液体がストロー P の内縁から外へ漏れることを抑制することができる。

20

30

【0020】

なお、第 1 蓋体 4 0 は、第 1 細ストロー孔 4 2 及び第 1 太ストロー孔 4 2 a の底端に、軟質のスリーブ部 4 2 1 及びスリーブ部 4 2 1 a が設けられる。スリーブ部 4 2 1 及びスリーブ部 4 2 1 a は、挿入されるストローの外縁に密着する。よって、容器内の液体がストローの外縁から外へ漏れ出すのが抑制される。

【0021】

このように、太ストローか細ストローの内縁か外縁かに関わらず、完全に密閉され、太ストローと容器蓋との間、或いは細ストローと容器蓋との間では漏れが起きない。

【0022】

また、本実施形態の第 2 蓋体 5 0 は、基部 5 0 a 及び蓋体部 5 0 b で組成され、高周波接着或いはねじにより螺着される。第 2 蓋体 5 0 は一体射出成形により形成される。第 2 蓋体 5 0 の第 2 細ストロー孔 5 3 及び第 2 太ストロー孔 5 3 a の下方にはスリット部 5 7 が設けられ、スリット部 5 7 は拡大孔部 5 7 1 を備える。拡大孔部 5 7 1 の一辺からは縦長のスリット部 5 7 2 が凹設される。これにより、図 5 から図 8 によると、第 2 蓋体 5 0 が回転する場合、第 2 細ストロー孔 5 3 及び第 2 太ストロー孔 5 3 a の下方の拡大孔部 5 7 1 の壁面において、ストロー P が、狭長のスリット部 5 7 2 へ導かれ、スリット部 5 7 2 に挟まれる。第 2 蓋体 5 0 が継続的に回転することで、ストロー P が湾曲する。第 2 蓋体 5 0 が第 1 蓋体 4 0 に加える圧力により、ストロー P の内縁が締め固められ密閉する。容器 2 0 の液体がストロー P の内縁から外へ漏れ出すのが抑制される。

40

50

【0023】

図1、図2及び図4を示すように、第1蓋体40は受台40a及び上部受台40bを備える。上部受台40bは受台40aの上端に設けられ、受台40aの上端と上部受台40bとの間には密封部材60を収容可能な収容スペース40cを有する。受台40aには、第1細ストロー孔42、第1太ストロー孔42a、及び通気孔43を有する。第1太ストロー孔42aの孔径が第1細ストロー孔42の孔径よりも大きい為、異なる口径のストローが挿入可能である。上述の第1蓋体40の受台40a及び上部受台40bは一体成形され、高周波緊固接着、或いは螺着等他の方式で連結されてもよい。

【0024】

本実施形態の密封部材60は、耐熱性を有し、ホットドリンクの安全基準に適した軟質材料である。密封部材60には気孔62が設けられ、第1蓋体40の通気孔43に対応する。

10

【0025】

なお、図1及び図4に示すように、上述の密封部材60の上面の細ストロー貫通孔61、太ストロー貫通孔61aの周縁、及び通気孔62の周縁には、第2蓋体50の底縁に貼着可能な漏れ防止環状部612及び漏れ防止環状部621が設けられる。これにより第2蓋体50の第2細ストロー孔53及び第2太ストロー孔53aと、密封部材60の細ストロー貫通孔61及び太ストロー貫通孔61aとが対応する場合、漏れ防止環状部612及び漏れ防止環状部621は、細ストロー貫通孔61、太ストロー貫通孔61aの周縁、及び通気孔62の周縁で漏れ抑制効果を果す。

20

【0026】

図1及び図4を示すように、本実施形態の密封部材60の底面の細ストロー貫通孔61、太ストロー貫通孔61a及び通気孔62の周縁には漏れ防止環状部612及び漏れ防止環状部621が設けられ、第1蓋体40の上縁の第1細ストロー孔42、第1太ストロー孔42a或いは通気孔43に対応且つ貼着し、容器20内の液体が漏れることを抑制する。

【0027】

上述の漏れ防止環状部612は、第1蓋体40の上方に設けてもよく、第1細ストロー孔42、第1細ストロー孔42a及び通気孔43の周縁に位置してもよい。上述の漏れ防止環状部612は第2蓋体50の下方に設けてもよく、また第2細ストロー孔53、第2

30

【0028】

図1、図2及び図4を示すように、本実施形態の容器蓋は、第1蓋体40の外縁にねじ山部45が設けられ、容器20の開口部21に螺接可能である。第1蓋体40の外縁には、漏れ防止パッキングリング44が環装され、容器20と第1蓋体40との外縁の間の隙間を密封する。

【0029】

図1、図2及び図4を示すように、本実施形態の第2蓋体50の外縁にはリング溝52が環装され、第1蓋体40のフランジ46に対応する。第2蓋体50は第1蓋体40の上面で自由に回転可能である。

40

【0030】

図1及び図2に示すように、第1蓋体40の上面には、第1蓋体40及び第2蓋体50の回転軸心を中心として離心中心にアーク溝47が設けられる。第2蓋体50の底縁には位置決めフランジ51が設けられる。第2蓋体50の位置決めフランジ51はアーク溝47に進入され、第2蓋体50はアーク溝47の両端が形成する夾角間の範囲内で回転可能である。

【0031】

本実施形態の第2蓋体50の底縁には弾性アーム54が設けられ、弾性アーム54にはホック部541（図6、図8及び図9に図示する）が設けられ、第1蓋体40の上面には位置決め部48が設けられ、位置決め部48はホック部541の回転移動経路上に設けら

50

れる。第2蓋体50の弾性アーム54のホック部541と位置決め部48とを対応する場合(図8に図示する)、第2蓋体50の第2細ストロー孔53、第2太ストロー孔53a及びホットドリンク用吸口53bと、第1蓋体40の第1細ストロー孔42或いは第1太ストロー孔42aの何れか1つとずれる。

【0032】

図1、図2及び図4に示すように、本実施形態の第2蓋体50には、嵌め込み孔55が設けられる。嵌め込み孔55には温度計或いは指北針等の第2機能部材70が挿入される。第2機能部材70は温度表示機能を有するプローブ71を有し、プローブ71は密封部材60及び第1蓋体40を貫通した後に容器20に挿入される。

【0033】

図10を示すように、上述の第2機能部材70は、プローブ71を備え、プローブ71は容器20に縦に挿入され、プローブ71の末端にはろ過盤721が設けられる。ユーザーの使用時には、茶葉を容器20に入れてお湯を注ぐと、ろ過盤721により茶葉がろ過され、お茶には茶葉が混ざらない。図11によれば、第2機能部材70はプローブ71を有し、プローブ71は前記容器20に縦に挿入され、プローブ71の末端には攪拌ヘッド722が連結される。ユーザーは攪拌ヘッド722を容器20に挿入して攪拌することで、コーヒーを淹れる時等に使用可能である。上述の第2機能部材70は気圧計、高度計或いはライト等であってもよい。

【0034】

図3を示すように、第1蓋体40の外縁には位置合せ標識41を有し、第2蓋体50の第2細ストロー孔53及びホットドリンク用吸口53bには飲み方に合わせてアイスドリンク用吸飲標識531a、ホットドリンク用吸飲標識531b、閉鎖標識531c等がそれぞれ標示される。

【0035】

図9に示すように、第2蓋体50を回転し、ホットドリンク用吸口53bを第1蓋体40の外縁の位置合せ標識41が標示される位置に整合すると、ホットドリンク用吸口53bは第1蓋体40の第1細ストロー孔42或いは第1太ストロー孔42aにちょうど対応する。同時に第2蓋体50の第2細ストロー孔53の下方のスリット部57は密封部材60の通気孔62及び第1蓋体40の通気孔43にちょうど対応する。第2細ストロー孔53、スリット部57、通気孔62及び通気孔43等の整合と連通により容器20内外を通気させ、ユーザーはホットドリンク用吸口53bから容器20のホットドリンク或いはアイスドリンクを飲める。

【0036】

また、図5及び図6を示すように、第2蓋体50の吸飲標識531aを回転して第1蓋体40の外縁の位置合せ標識41が標示される位置に整合すると、第2蓋体50の第2細ストロー孔53及び太ストロー孔53aは第1蓋体40の第1細ストロー孔42及び第1太ストロー孔42aにちょうど対応する。この際、ユーザーは、2つの第2細ストロー孔53及び太ストロー孔53aにより容器20の液体を飲める。例えば、ストローPが第2細ストロー孔53或いは第2太ストロー孔53aに挿入され、ストローPが密封部材60の細ストロー貫通孔61または太ストロー貫通孔61aから第1蓋体40の第1細ストロー孔42または第1太ストロー孔42aに挿入され、容器20の清涼飲料が飲める。ストローが挿入されていない他の第2細ストロー孔53或いは第2太ストロー孔53aは通気口とし、液体が流出することが出来る。

【0037】

第1蓋体40の外縁には位置合せ標識41を有する。第2蓋体50を回転させて吸飲標識531aを位置合せ標識41対応させると、第2細ストロー孔53は第1細ストロー孔42に対応され、第2太ストロー孔53aは第1太ストロー孔42aに対応され、ユーザーはストローを挿入して飲料水を飲むことができる。ホットドリンク用吸飲標識531bが位置合せ標識41に対応すると、ホットドリンク用吸口53bは第1細ストロー孔42に対応され、ユーザーは直接に口をつけて飲める。閉鎖標識531cが位置合せ標識41

10

20

30

40

50

に対応すると、第2清涼飲料細ストロー孔53、第2清涼飲料細ストロー53a及びホットドリンク用吸口53bと、第1清涼飲料細ストロー孔42及び第1清涼飲料太ストロー孔42aとがずれる。

【0038】

図7及び図8を示すように、ユーザーが一時的に清涼飲料を飲むことを止めると、第2蓋体50を回転することで、第1蓋体40と第2蓋体50とを互いにずらし、第1蓋体40と第2蓋体50との間に位置するストローPを第2蓋体50のスリット部57に挟む。第2蓋体50を継続して回転すると、閉鎖標識531cが位置合せ標識41に対応する。このとき、ストローPが湾曲し、第2蓋体50の第1蓋体40に対する圧力により、ストローPの内縁を完全に締め固めて密閉する。第1蓋体40下方に設けられるスリーブ部421及びスリーブ部421aはストローPの外縁に密着する。これで、容器20の液体がストローPの内縁或いは外縁から外へ漏れることを抑制することができる。

10

【0039】

本実施形態の効果を以下の通り説明する。

1. ユーザーは蓋を開けずに太ストロー或いは細ストローを挿入可能であり、あらゆる飲料に適用可能である。例えば細ストローにより普通の飲料を吸い、太ストローにより顆粒を含む飲料を吸うことができる。

2. ユーザーは第2蓋体50を回転させる事で、3種類の機能を使用することができる。細ストローまたは太ストローを挿入する機能、直接に口をつけて飲む機能、完全に閉鎖する機能等の3種の機能を使用することができる。

20

3. ユーザーが一時的に飲料を飲むことを止めるとき、ストローを抜かずに、第2蓋体50を回転することで、ストローを湾曲させ第2蓋体50内に収容することができる。よって、密封により衛生的であり、携帯的である。

4. 温度計、指北針、お茶をろ過する為のろ過盤或いは攪拌ヘッドを設けることで、容器の機能を増やし、ユーザーのために多機能の選択肢を与えることができる。

5. 完全に閉鎖された場合、第1蓋体40と容器20との間、第2蓋体50と第1蓋体40との間、ストローPの外縁と第1蓋体40との間、及びストローPが挟まれて湾曲した後相互に対応して接触する両内縁の間は全て完全に密封され、漏れを抑制することができる。

【0040】

30

以上、本実施形態はこのような実施形態に限定されるものではなく、考案の趣旨を逸脱しない範囲において、種々の形態で実施することができる。

【符号の説明】

【0041】

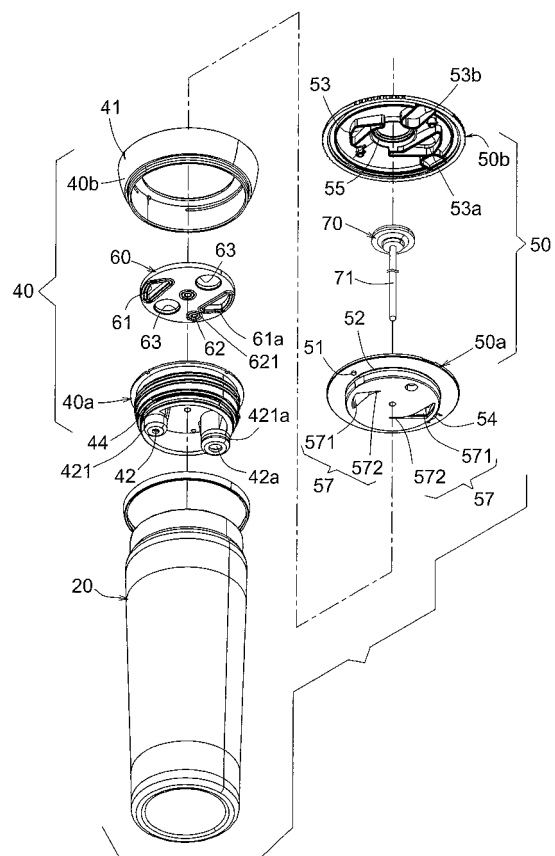
20・・・容器、
 21・・・開口部、
 40・・・第1蓋体、
 40a・・・受台、
 40b・・・上部受台、
 40c・・・収容スペース、
 41・・・位置合せ標識、
 42・・・第1細ストロー孔、
 42a・・・第1太ストロー孔、
 421・・・スリーブ部、
 421a・・・スリーブ部、
 43・・・通気孔、
 44・・・漏れ防止パッキングリング、
 45・・・ねじ山部、
 46・・・フランジ、
 47・・・アーク溝、

40

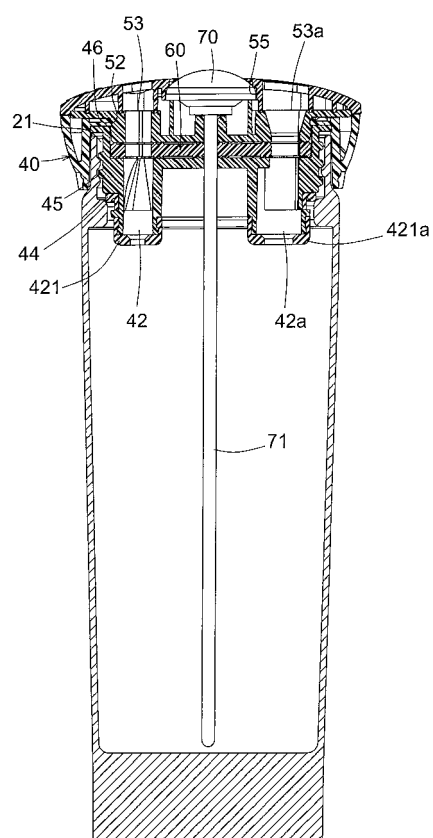
50

4 8 . . . 位置決め部、	
4 9 . . . 位置決め部、	
5 0 . . . 第 2 蓋体、	
5 0 a . . . 基部、	
5 0 b . . . 蓋体部、	
5 1 . . . 位置決めフランジ、	
5 2 . . . リング溝、	
5 3 . . . 第 2 細ストロー孔、	
5 3 a . . . 第 2 太ストロー孔、	
5 3 b . . . ホットドリンク用吸口、	10
5 3 1 a . . . 吸飲標識、	
5 3 1 b . . . ホットドリンク用吸飲標識、	
5 3 1 c . . . 閉鎖標識、	
5 4 . . . 弾性アーム、	
5 4 1 . . . ホック部、	
5 5 . . . 嵌め込み孔、	
5 7 . . . 挟持溝、	
5 7 1 . . . 拡大孔部、	
5 7 2 . . . スリット部、	
6 0 . . . 密封部材、	20
6 1 . . . 細ストロー貫通孔、	
6 1 a . . . 太ストロー貫通孔、	
6 1 2 . . . 漏れ防止環状部、	
6 2 . . . 通気孔、	
6 2 1 . . . 漏れ防止環状部、	
6 3 . . . 接続部、	
7 0 . . . 第 2 機能部材、	
7 1 . . . プロープ、	
7 2 1 . . . ろ過盤、	
7 2 2 . . . 攪拌ヘッド、	30
P . . . ストロー。	

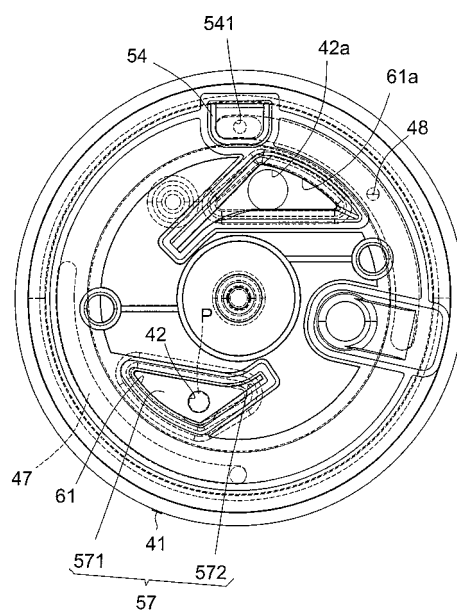
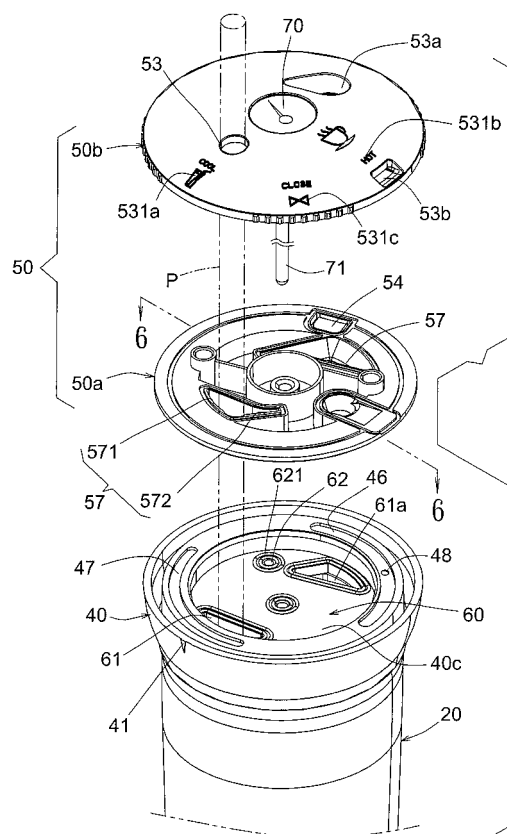
【図 2】



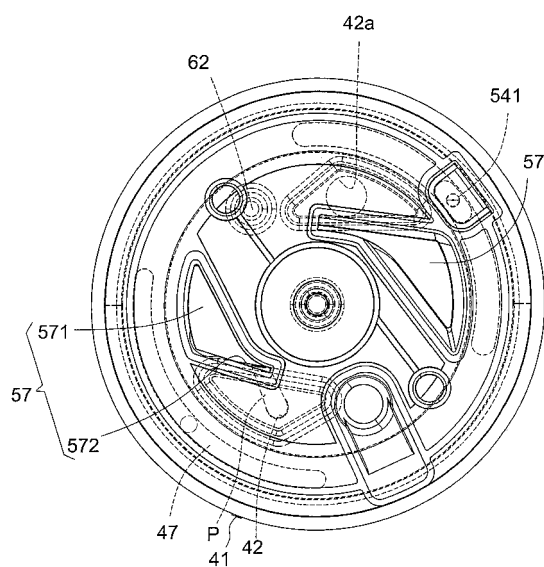
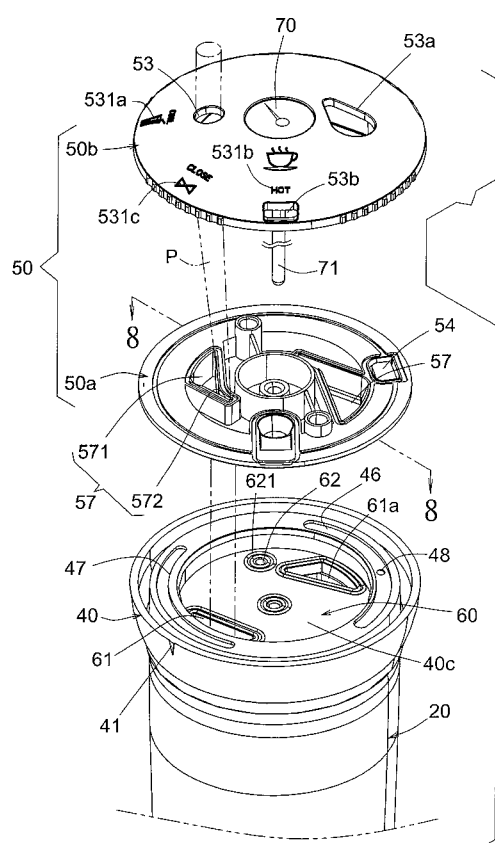
【 図 4 】



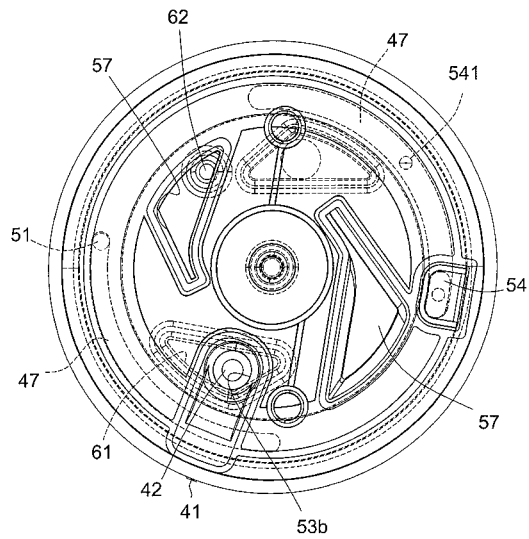
【图 6】



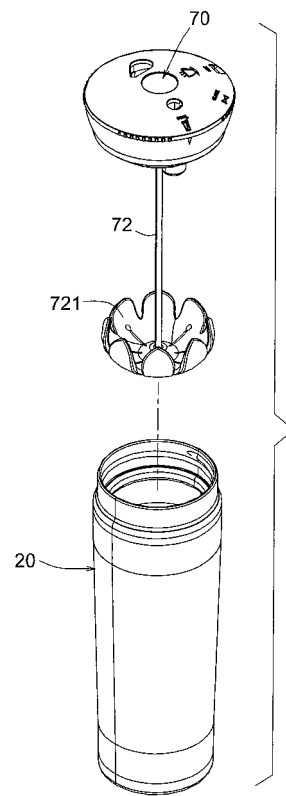
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

